



発行 湖南省教育委員会教育研究所
 湖南省石部中央一丁目1番1号 西庁舎内

TEL 0748-77-7052(直通) FAX 0748-77-4101(代)
 Mail edkonan006@edu-konan.jp



学びを深めるワーキンググループ

第3回 学びを深めるワーキンググループ (12月9日)



第3回会議の様子

◆「～たくなる」対話 「問い」の工夫
 →子どもたちが自ら主体的に関わりたいと感じるような対話的な学びをめざす。
 対話を生み出すには、「モヤモヤする状態をつくる」(子どもの疑問)ことと「正解が一つではない問いにする」ことがポイント。

◆授業づくり(環境的側面) 場の設定・動き・変化の中で学ぶ仕掛けづくり
 環境の変化(机の配置、座る立つなど動き)、多様なワーク(ペアワーク、グループワーク、二軸四象限ワーク、ワールド・カフェ、フィッシュボールなど)の活用、発表形式の多様化、教師の関わり方など、具体的な授業改善の工夫。

◆教師の役割の変革(ファシリテーター) 何をどの視点で「みる」か→適切な手立て
 教師は知識を一方的に「指導」する立場から脱却
 →子どもたちが自ら考え、学びを深めるプロセスを支援する「ファシリテーター」としての役割を担う(「おや?」と思う問いを出す、子どもと一緒に考えながらワウワウする、少数派の意見も尊重する、そして「子どもから学ぶ」姿勢などが求められている。)

◆自律的学習(自走) 「この一単元で」「年間を通して」力を伸ばす視点
 →従来の「読む・書く・話す・聞く」に加えて、「問い」や「ふりかえり」の質、活用が重要。
 →教師の話すこと(伝える)を精選し、子どもたちに任せる(活動)時間をさらに充実。

庄子先生10月訪問の指導助言より

会議では、まずグループ委員による2学期の実践報告を行いました。続いて、10月に代表者授業を実施した教員が実践を発表しました。児童が市内の別の小学校へ発信するという相手意識をもたせたことで、児童の「～たくなる」という意欲が高まり、主体的な学びにつながったことが報告されました。

また、児童生徒にどこまで任せるのかという点や、任せている場面での教師の見取りが課題として挙げられました。後半の1月の代表者授業の指導案検討では、これらの課題を踏まえ、どのような手立てが有効かについて協議しました。

ワーキンググループ委員の振り返りから

○相手意識の重要性を改めて感じました。自分に切実感がある、関係があることが学習のゴールになることが「～たくなる」に大きく繋がると感じました。

○単元のゴールで、書くのか、話すのか、録画で残すのかなど様々な選択肢を児童自身が選択できるような手立てを学ぶことができました。

○Padlet市内小中学校「～たくなる」授業づくり共有ボードには魅力的な投稿がたくさんあり、自分の学びになるので、もう一度校内で広めたいと思います。

2年3組 英語科

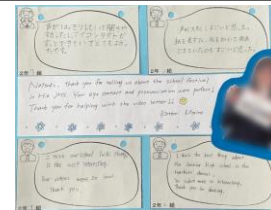
単元名「自分たちの学校生活を甲西北中学校の2年生に発信しよう」



単元のゴール説明



ペア交流の様子



甲西北中からの感想メッセージ

授業を実践してみて(授業者より)

子どもに任せる時間を増やすことができました。具体的には、ペアで発表原稿を読み合う時間を設定したり、修正箇所について互いに検討し合う場面を設けたりしました。また相手意識をもち、話したい、伝えたいという題材を個々に選択して活動したことで、主体的な活動となりました。今後は、全体で修正箇所のポイントを確認した後に、生徒に任せる時間を設定するなど、より主体的に取り組めるような授業展開にしていきたいと考えています。今回は、修正箇所について教師が添削しすぎてしまったため、生徒自身が考える時間を十分に確保できなかった点が課題でした。手立てを再検討したいと思います。

1月15日 岩根小学校

4年1組 国語科

単元名「探偵ファイルに読みを記録し、なぜときのかぎをつないで読もう」



動きのあるワーク



気になる叙述を共有



叙述を根拠にペア交流

授業を実践してみて(授業者より)

単元全体の中で、どの時間を児童に任せることができるのかを吟味し、児童と共有したことで、児童が単元全体の見通しをもつことができました。その結果、主体的に学びに向かう姿につながったと感じています。また、1時間の授業の中では、発問(問いかけ)の質が児童の主体的な活動や対話に影響があることを、改めて実感することができました。交流場面においては、確認のための全体交流だけでなく、児童の考えを広げたり深めたりするための全体交流を取り入れていきたいと考えています。

第4回初任者研修（2月5日）

午前中は、石部小学校の疋田教諭による代表者授業が行われました。4年生の道徳科では、「～たくなる」対話を生み出すための教材提示や話し合いの工夫が見られました。グループ交流では、相手の目を見て話し合う児童の姿が印象的でした。研究協議会では、グループ内で自分の実践を交えて発言する初任者が増え、経験を積み重ねている様子がうかがえました。

午後からは、生徒指導と人権教育の視点から、市担当指導主事による研修が行われました。初任者が事前に自身の実践を振り返り、手立てとその効果をまとめて提出していたことで、参加者が自分事として捉えながら学ぶことができた研修となりました。



「～たくなる」対話を生み出すしかけ



動きから心情を考える



活発な研究協議会



「人権教育の視点で1年間を振り返る」



「生徒指導の視点で1年間を振り返る」

受講者の振り返りから

（午前）

○道徳科においても「～たくなる」にするためのしかけが必要だと考えました。切り返しの質問が苦手で、良いとされている価値に誘導してしまうことがあるので、対話やディベートを取り入れ、深めたい部分で切り返すなどをして、「～たくなる」授業を実践していきたいと思えます。

（午後）

○子どもがふさわしくない言葉を発した時にアンテナでキャッチすることが必要だと思いました。自分自身の価値観や無意識の中で否定するような言葉を言っていないかも一度考えたいです。教師の言葉かけ一つから、きちんと伝えていきたいと感じました。

第3回 ICT活用推進委員会（1月30日）

まず、今年度の取組の成果と課題、そして次年度に取り組みたいことについて、4つのグループに分かれて共有しました。その後、中学校区ごとのグループに分かれ、今後の見通しや横展開を進めていくための情報共有を行いました。



続いて、リーディングDXスクール指定校による実践発表「校務改善でのクラウド活用について」では、今年度指定校である甲西中学校と三雲小学校の担当者が発表を行いました。この発表を通じて、参加者は組織として連携して取り組むことの重要性を再認識しました。

次年度には市内でさらに校務におけるクラウド活用が広がっていくことが期待されます。



DX推進委員会の目標

活用の機会を増やし、教職員の意識改革を促す

- ▶① 校務DX
情報の共有 会議や研究会でのクラウド活用
- ▶② 学習DX
授業での積極的活用
深い学びに繋がる学習の確立
- ▶③ 家庭DX
毎日の持ち帰り学習 連絡帳

三雲小学校の実践発表

① 校内研究のDX化

- ・校内研究「一人一授業」
授業構想シートや授業関連資料をTeamsにアップロード
→チャット上で協議
場所や時間を選ばず授業検討
- ・生成AIによる文書添削、作成

① 校内研究のDX化



甲西中学校の実践発表

受講者の振り返りから

○リーディングDX指定校の三雲小、甲西中の取組を聞いて組織で動いていくことの大切さを再認識しました。また研究協議会でTeamsを使うと空き時間にコメントができ校内でも活用してみたいと思いました。

○中学校の課題を聞きました。また、小学校で学習の中でたくさん使っていき、スムーズに繋がるようにしていくことが大切だと思いました。

○これからもICT活用推進委員会で得た学びをできる範囲で取り入れていきたいと思えます。